

# [第 131 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 4年 10月

NPO法人高島藤樹会



- 日 時 令和 4年 11月 5日(土) 15時～17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」  
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.172～(用意します)  
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

- 10月1日(土)、第130回藤樹人間学塾を開きました。  
今回は大阪、京都から参加の方を入れて10名でした。
- テキスト  
中江藤樹著『鑑草』の第三巻の第3話、第4話、第5話。
- あらすじ

第3話「文王の後、大姒は仁徳が高かったため、たくさんの妾たちはみな恵みを受け、宮中は平穏であった。大姒は男子10人を授かり、その中の武王と周公の二人は聖人だったのでついに天下を保ち、子々孫々までめでたく栄えた」(以下略)

## ■ 配布資料

- (1) 「文王・武王・周公旦」、(2) 「英・エリザベス女王の生涯と国民にとっての存在」、(3) 三毒(貪瞋痴)・嫉妬という怒り、(4) 横田南嶺「俱に遊ぶ、仏心公明の中」 等

## ■ 今日のポイント

- ◇ 徳による政治は、洋の東西を問わず国民から広く深く支持され長く続く。
- ◇ 嫉妬は三毒(貪瞋痴)の瞋(怒り)の一つで危ない性格。がんばって相手の幸福を喜ぶようにするしかない。
- ◇ 「死んでも死なないのち」を会得するには、常に仏心(大宇宙)の中に抱かれていると信じること。

## ■ フリートーキング

- ◇ 「ヨガの研究で三毒により身体が病気になることが科学的に証明されつつある」
- ◇ 「人は何のために生まれてきたのか。半ばは自分の幸せのために、半ばは他人の幸せのために、を目指している」
- ◇ 「親しい人の幸せを喜ぶことはできるが、嫌いな人の場合は難しい」→慈悲の瞑想では、嫌いな人も幸せでありますようにと祈る。
- ◇ 『鑑草』は、『中庸解』と全く違うが、「人を見て法を説く」藤樹先生の思考の深さに脱帽」等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。塾の後、場所を変えて6人で楽しい懇親会を行いました。

- 学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。